

□議員名：石田清廉

1 市道や生活道路の安全環境面の維持管理は適正にされているのか。

論点	市道や生活道路は 432 路線ある。市道改良率は H23 年で 57%と大変低い。通学路の歩道整備や拡幅の早期改善が重要課題である。
回答	市道は幹線道路の交通渋滞緩和のためにも整備が必要だ。通学路などの調査を実施して必要に応じて改善していく。 都市計画道路の改良率は H23 年 39,4%、特に山陽区域の改良が遅れている。50 年以上未改良個所については都市計画見直しが必要だ。

2 国道 190 号の新生町から丸河内交差点までの拡幅計画の進捗状況を問う。

論点	事業は S48 年に一部を除き暫定 2 車線で開通、以後、車両の通行量も増加、救急車両の労災病院への出入りが困難、早期改善が必要。
回答	国が公表した県内の主要渋滞個所に同線の丸河内交差点や労災病院入口交差点が選定された、国が整備を検討中、同入口から新生町までは小野田湾岸線の整備状況と交通状況を勘案しながら研究すると聞いている。

3 新有帆川架橋完成後の小野田・宇部両湾岸線の接続計画はあるのか。

論点	湾岸道路計画は山口朝田 I C から宇部湾岸・小野田湾岸さらに千崎 I C (山陽自動車道) まで接続計画、現在、宇部湾岸との接続計画は中断されたままだ、事業の早期進展が待たれている。
回答	この地域の道路状況は住宅地や工場群など密集地を通過せざるを得ない。整備の重要性はあるが、膨大な事業費が想定され、供用後の交通需要や経済情勢を踏まえ慎重に判断する。今後も国、県に対して要望していく。都市計画道路見直し業務の結果と地元の意向を踏まえて検討すると聞いている。

4 新有帆川架橋の完成後、公園通り周辺の道路拡幅整備計画はあるのか。

論点	架橋開通は企業誘致の促進、商工業振興などに大きな期待がある。しかし一層の交通渋滞が予測される、国道・県道・市道。JR 踏切など複雑な道路状況だ。周辺住民の安全面の不安が問題である。
回答	H24 年、県の交通状況調査は実施された、騒音、交通量の増加、渋滞などが進んでいる、また歩道や拡幅整備も必要だ。今後、状況を見ながら改善を検討すると聞いている。

5 県道小野田線日の出工区くし山跨線橋拡幅事業の進捗状況を問う。

論点	この地域は幼稚園、小・中・高や団地などが有り、一部2車線のままで交通渋滞も日常的だ。JRとの交渉、用地買収交渉は進展しているのか、早期事業の促進が重要ではないか。
回答	当面は国道190号との交差点である長田橋交差点を先行して進める、用地買収交渉が難航している。近年、美祢方面からの大型車両の交通量も増加している。県からは今後も引き続き、早期供用に向けて、用地交渉を続けていくと聞いている。

論点	道路行政は大きな予算と永い時間を要する。だからこそ継続的に国・県に対し地域の道路事情を、住民の強い要望事項として届けるべきだ。
回答	現状は十分把握している。地域経済の活性化、企業誘致促進による雇用促進、定住人口の増加を図るためにも重要な課題だ。今後も議会の協力も得ながら、積極的な道路行政に取り組む。